

Becoming a cutting-edge, trusted global market leader

2013年12月

橋本 裕一

アンリツ株式会社

代表取締役社長 グループCEO



MEMBERSHIP

TSE code : 6754
<http://www.anritsu.com>



目 次

1. 会社概要、事業概要
2. 2020 VISION、中期経営計画GLP2014
3. 成長ドライバー モバイル計測ビジネス
4. モバイル分野のビジネスモデル
5. 産業機械事業
6. 企業価値の向上、配当方針

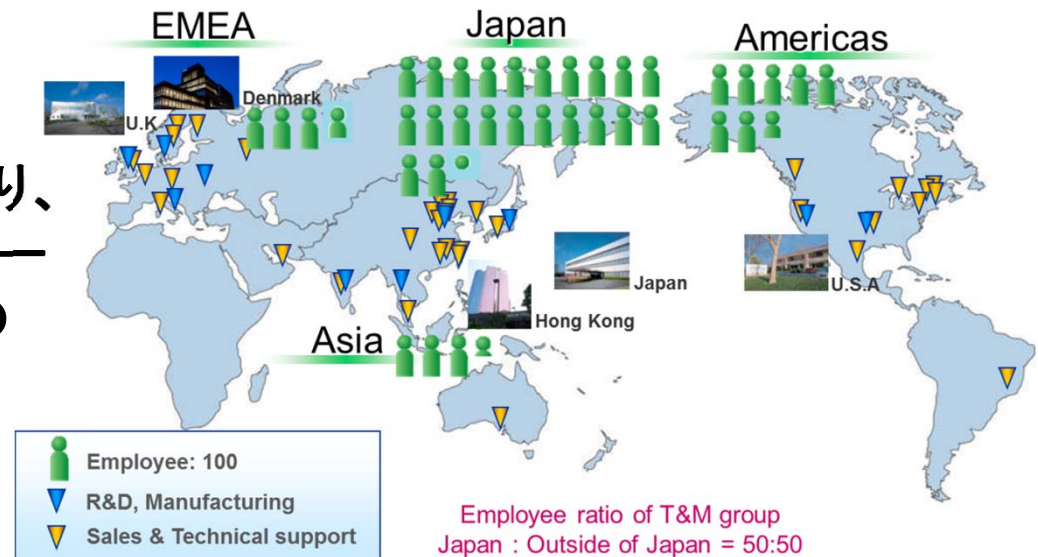


1. 会社概要、事業概要



1-1. 会社概要

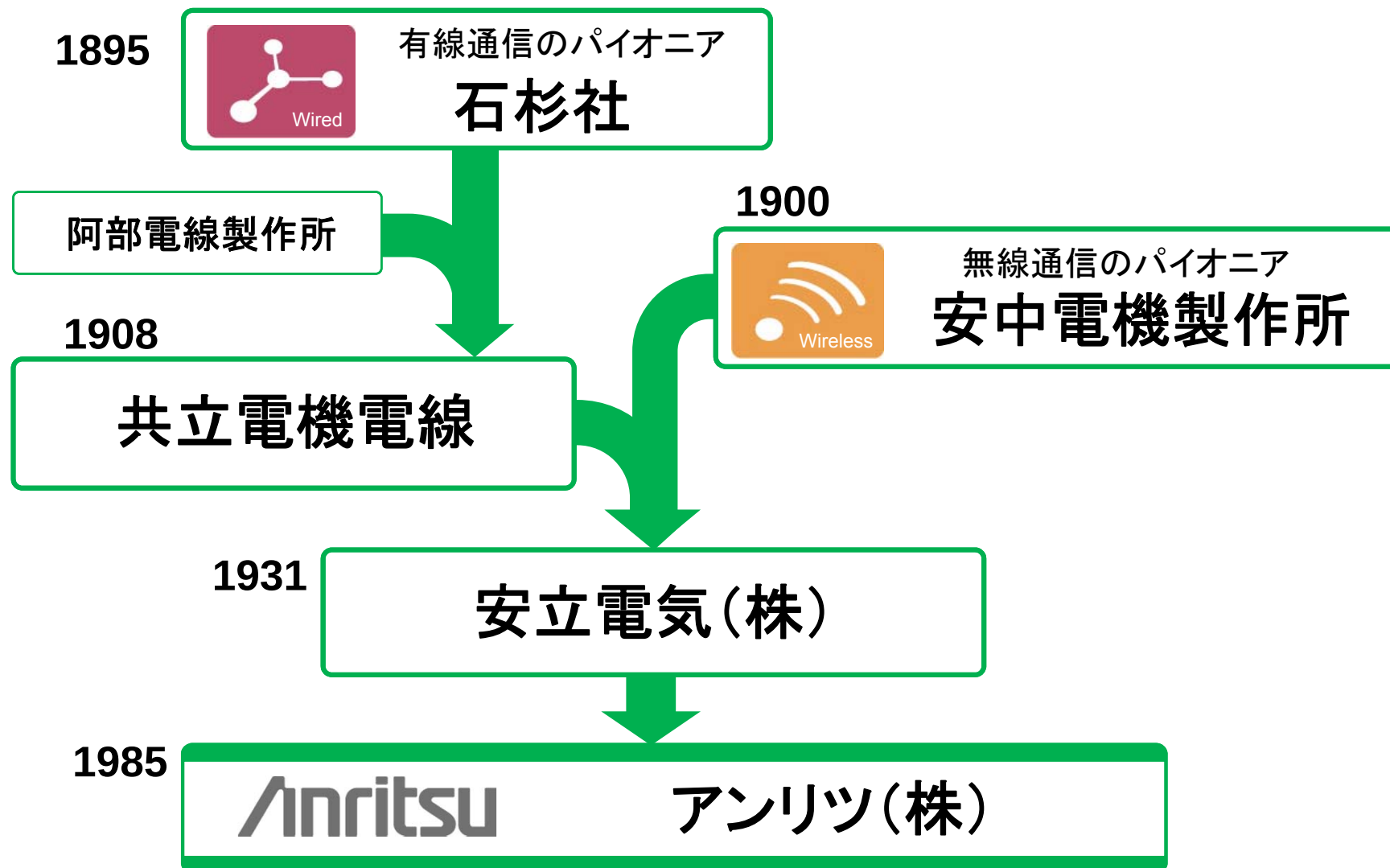
アンリツは、創業以来118年にわたり、グローバルに、お客様とのパートナーシップを築いて、世界の通信技術の発展に貢献してきたリーディングカンパニーです。



社名	アンリツ株式会社
本社所在地	神奈川県厚木市
創業	1895年
資本金	190億52百万円（2013年3月末現在）
売上高	946億85百万円 （連結、2013年3月期）
従業員数	3,771 名（連結、2013年3月末現在）
グループ企業	日本：11社、海外：27社
証券コード	6754

1-2. アンリツのルーツ

-有線・無線通信企業の統合-



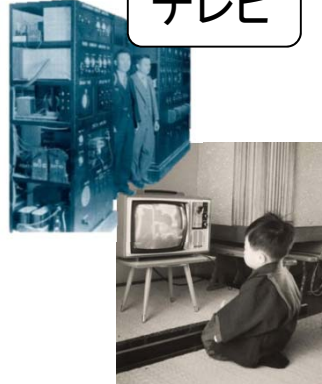
1-3. インターネット & モバイルを計測で支えるアンリツ



ラジオ



テレビ



携帯電話



スマートフォン



1900

時代と通信の進展

2000



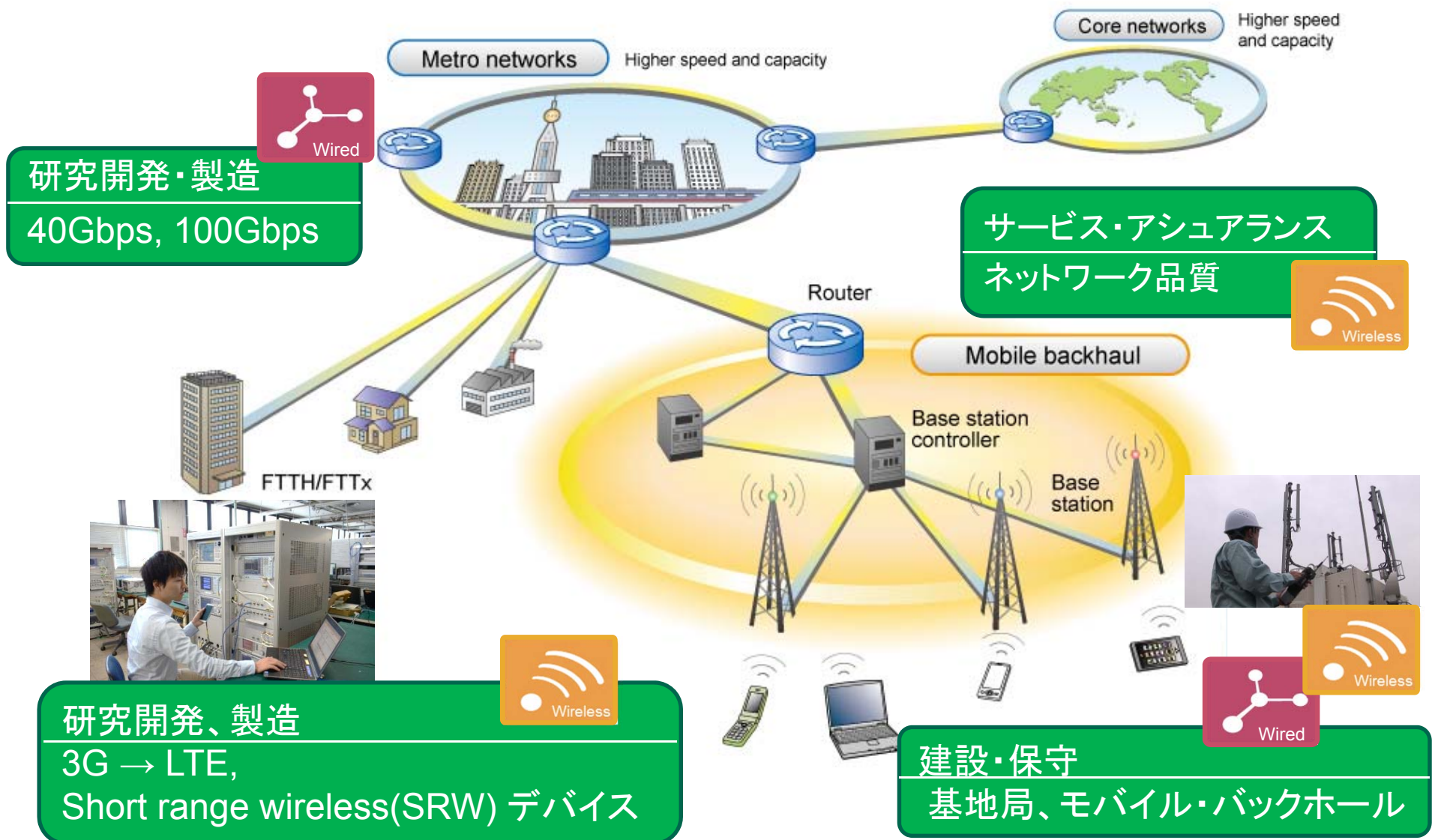
固定電話



インターネット



1-4. 通信システムにおける課題とアンリツの貢献



1-5. 事業概要

2012年度 売上高：947億円
営業利益：158億円

計測事業

開発・製造・建設・保守用

- ▶ モバイル市場
- ▶ ネットワーク・インフラ市場
- ▶ エレクトロニクス市場



産業機械事業

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率)

計測 75%			産業機械 15%	その他 10%
モバイル 50%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 20%		

(計測事業 地域別売上比率)

日本 25%	アジア・パシフィック 30%	米州 30%	EMEA 15%
--------	----------------	--------	----------

2. 2020 VISION, 中期経営計画 GLP2014



2-1. 2020 VISION



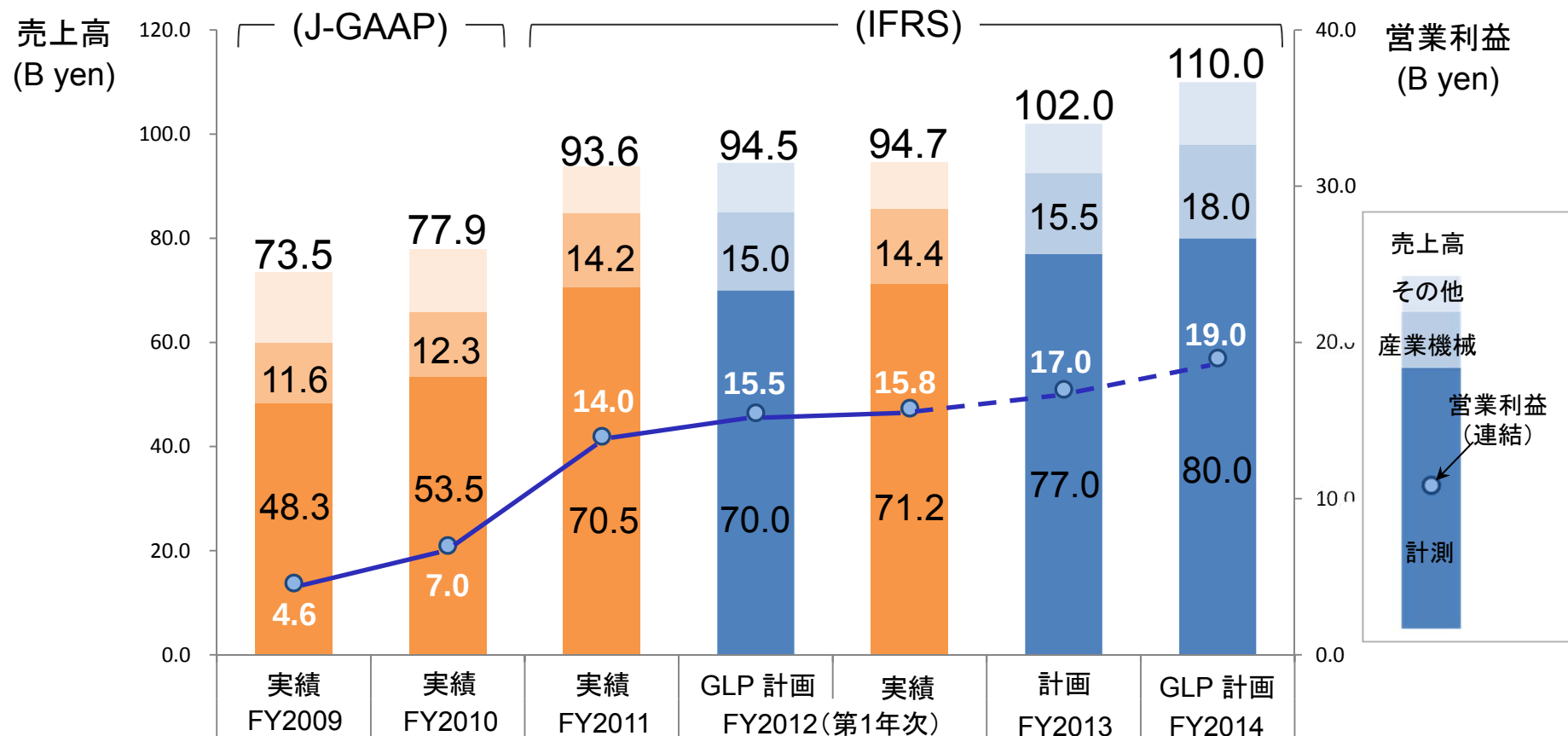
1 Global Market Leaderになる

- ・アンリツらしい価値の創造
- ・ワールドクラスの強靱な利益体質の実現

2 事業創発で新事業を生み出す

- ・新しい分野でアンリツの先進性を発揮

2-2. 中期経営計画 GLP2014



営業利益率	連結	6%	9%	15%	16%	17%	17%	17%
	計測	5%	9%	20%	20%	21%	20%	20%
ROE		1%	8%	20%	20%	25%	17%	≥20%*
ACE*(B Yen)		△3.0	1.9	5.2	7.0	9.4	7.5	9.0

*ACE: 税引後営業利益 - 資本コスト

*自己資本の充実が早期に実現したことにより、FY2014のROE目標を20% から 17%に見直しました。

2-3. 中長期の経営基本戦略

成長ドライバを確実にキャッチして、
“利益ある持続的成長”を実現する

	市場 年平均 成長率	成長ドライバ	ターゲット	
			売上 成長率	営業 利益率
計測	3-5%	①モバイル ブロードバンド サービス市場 ②アジア市場	≥7%	≥20%
産業 機械	3-5%	①アジア市場 北米市場	≥7%	≥12%
連結	—	—	—	≥18%

3. 成長ドライバー モバイル計測ビジネス



3-1. スマートフォンとアプリケーション／サービスの普及拡大

最先端モバイル技術の開発
レガシー方式との親和性確保
セルラーとノンセルラーの融合

データトラフィック増加
2～3倍／年

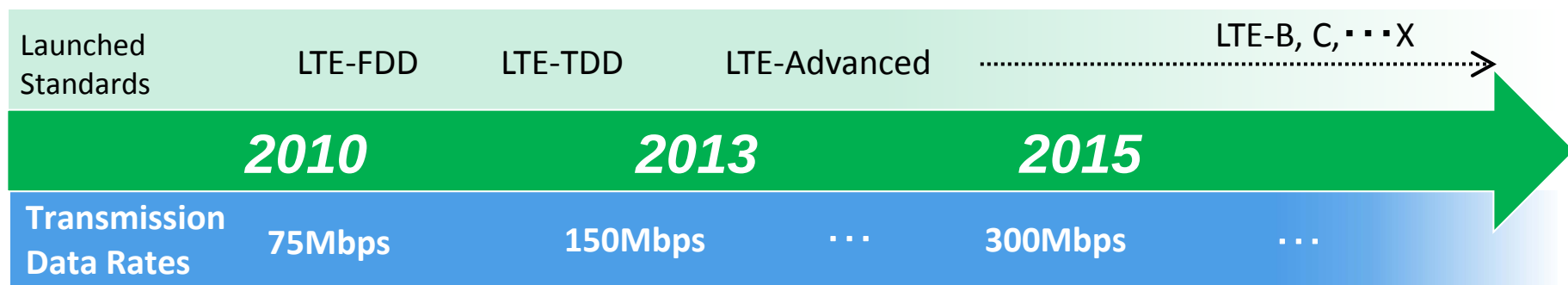
スマホの進化と急速な普及
QoS, QoEの重要性
アプリ充実、Eコマースの拡大



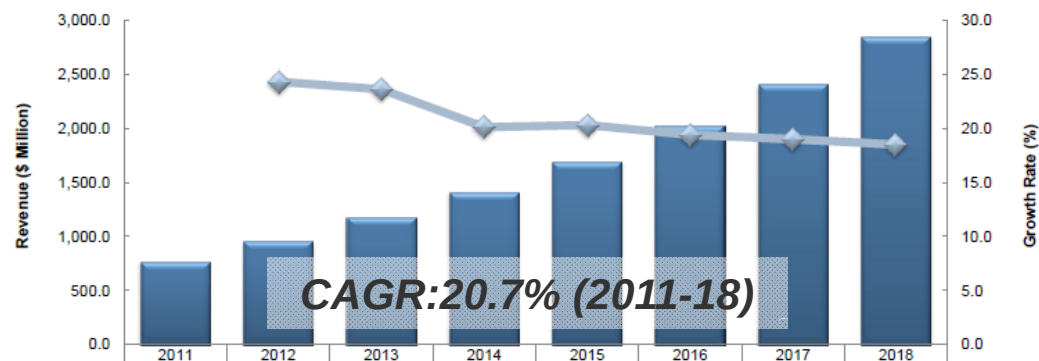
3-2. LTE技術の進展

- (1) LTEサービス展開の加速
- (2) 無線システムの進化と複雑さの増加（周波数帯域の有効活用）
- (3) LTE適合試験需要の増加
- (4) 試験システムの効率性、自動化の高まり

LTE技術の進化と実用化のロードマップ



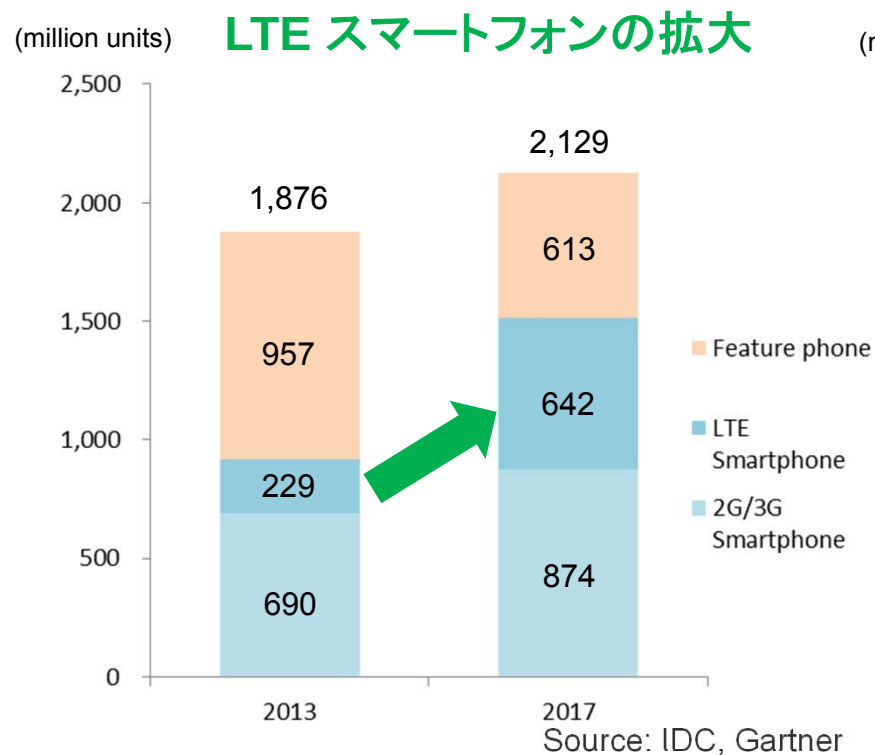
LTE Test Equipment Market Revenue Forecast (2011-18)



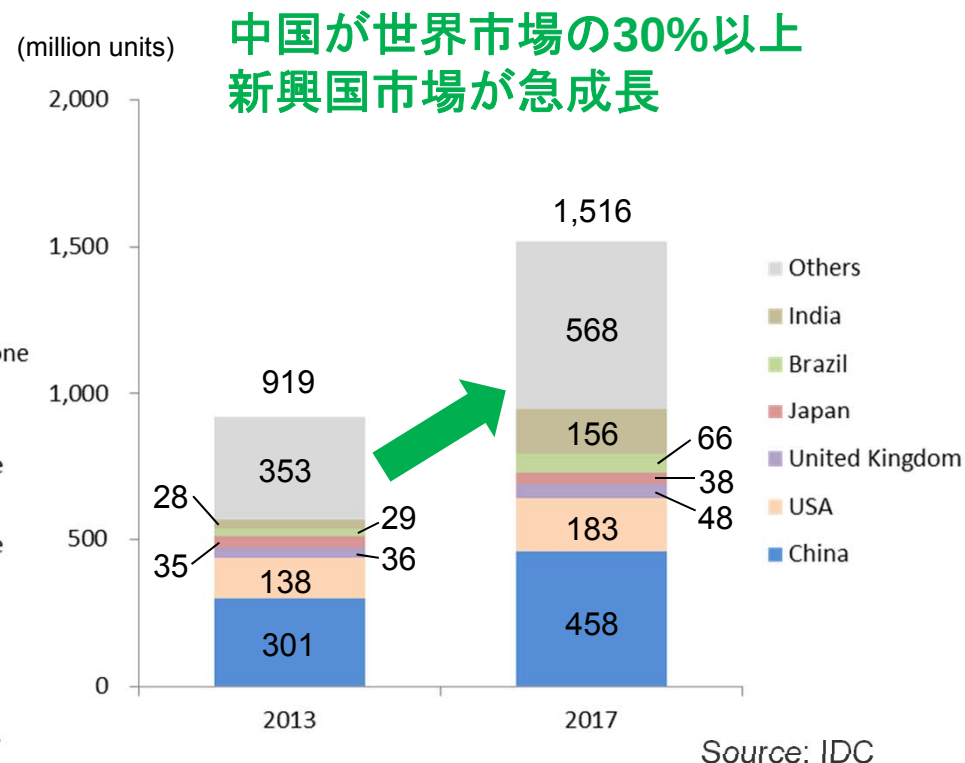
Source: Frost & Sullivan "Global Overview of the Communications Test Equipment Market"

3-3. スマートフォンの普及

[携帯電話/スマートフォン出荷台数]



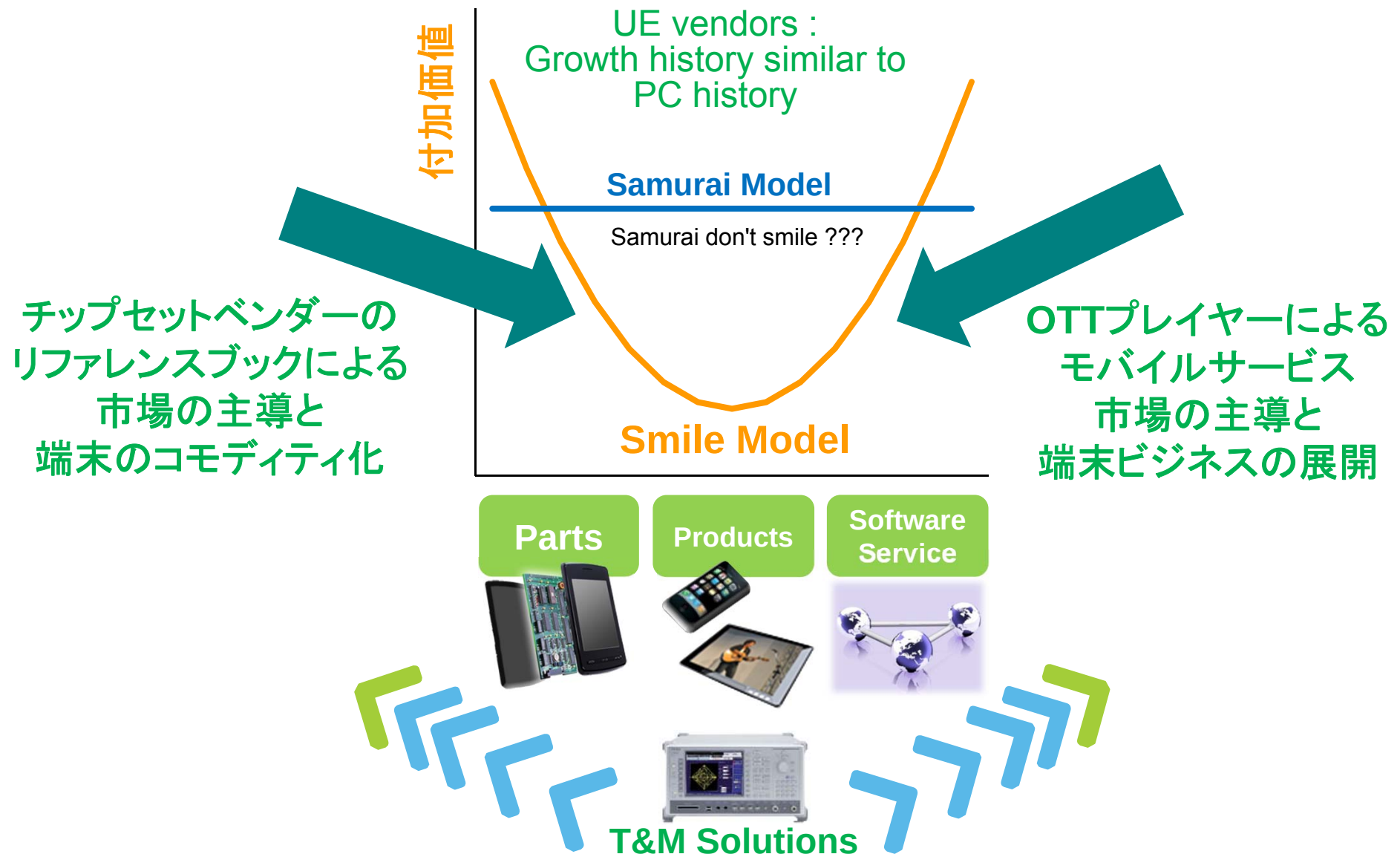
[スマートフォン 地域別出荷台数]



(モバイル通信規格の進展)



3-4. バリューチェーンの変化



3-5. 市場の激変リスクを事業機会へチャレンジ

モバイル分野の世界的再編:

北米オペレータの合従連衡:

Verizon, Vodafone, Sprint, T-Mobile US

Microsoft : Nokia 買収

Fairfax : BlackBerry 経営支援

スマホ撤退 : NEC、パナソニック

Broadcom : ルネサス・モデム事業買収



成長市場(市場を主導する顧客)の獲得
多様化する顧客ニーズに応えるソリューションの提供
市場変化を先取りする事業ポートフォリオ戦略

3-6. モバイル技術の応用拡大:クラウドサービスの進展

社会インフラとしてのモバイル技術
の応用分野が拡大

Cloud Service

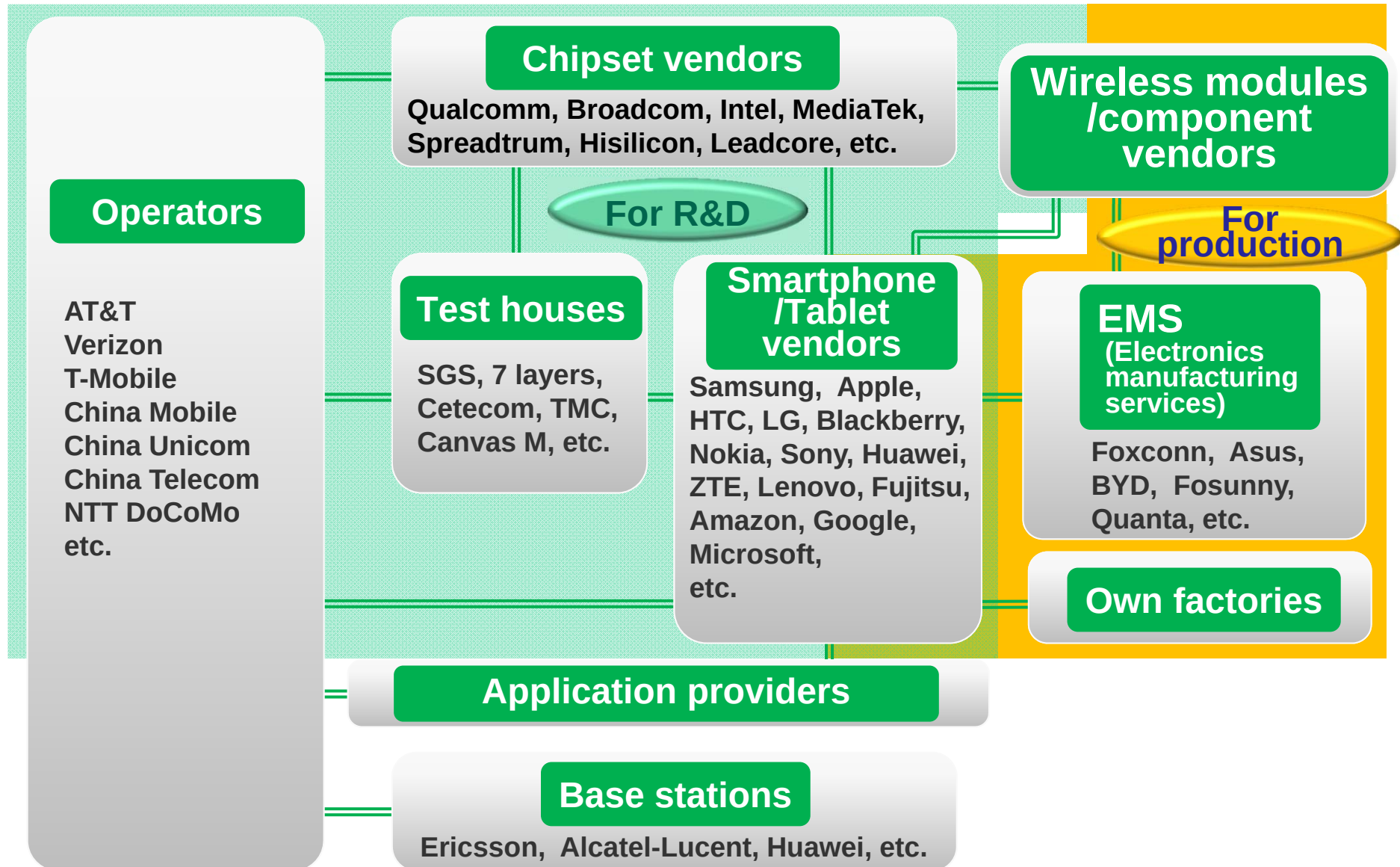
環境, 健康・医療, 教育, 電子行政



4. モバイル分野のビジネスモデル



4-1. モバイル通信市場の業界構造とプレイヤー

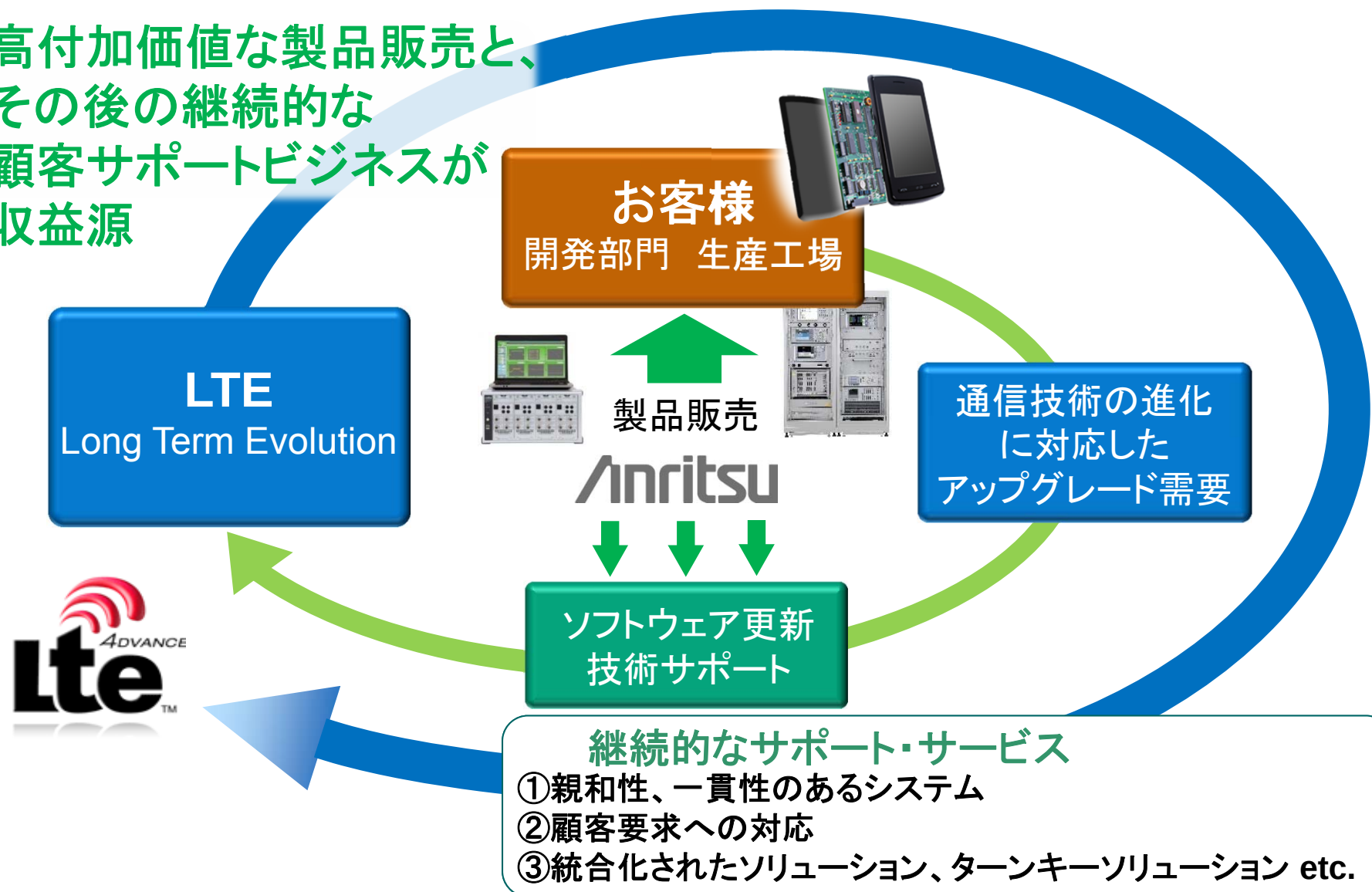


4-2. 端末のテストサイクルに対応する トータルソリューション



4-3. 進化し続けるモバイル・ブロードバンド

高付加価値な製品販売と、
その後の継続的な
顧客サポートビジネスが
収益源



4-4. モバイルR&Dビジネス – 多様な市場セグメント

	プラットフォーム (コア)開発	規格適合試験		オペレータ 受入試験	スマートフォン 商用開発試験
		RF	プロトコル		
用途	通信規格開発 チップセット開発	規格適合性試験 相互接続試験		通信キャリア認証試験	アプリ開発 端末動作検証
主な顧客	チップセットベンダー 端末ベンダー	チップセットベンダー、端末ベンダー 通信キャリア		通信キャリア テストハウス	端末ベンダー アプリ開発事業者
主要テーマ	・FDD-LTE, TDD-LTE, LTE-Advanced 関連技術(Carrier aggregation etc.) ・VoLTE (Voice over LTE) ・MIMO (Multi Input Multi Output) ・3G/LTE と SRW (Short Range Wireless) のチップセット一体化				・Improve data throughput ・Battery consumption etc.
市場動向・ 事業機会	 No.1ポジション 堅持	 No.1ポジション 堅持	 市場拡大 ポジション向上	 市場拡大 ポジション向上	 市場拡大 ポジション向上
製品					
主な競合	Rohde & Schwarz		Rohde & Schwarz, Agilent, Anite, Spirent		Rohde & Schwarz, Agilent, Aeroflex

4-5. 顧客ニーズに応える最新の製造用ソリューション

1 マルチポート：スマートフォン、通信モジュールの製造に最適な新テスト

- 4台分の測定器を1つのシャーシに実装でき、スペース半分

2 生産性向上：業界最高速の測定スピードで、高効率、高品質な製造ラインを構築

- 最新のチップセットと連携動作し、高速Verification（シーケンス測定）を実現
- 測定精度は業界標準機の当社MT8820Cと同クラス

3 SRWとの一体化：複数の無線技術測定をサポート

- セルラーだけでなく、**Wi-Fi / Bluetooth / GPS / ISDB-T / オーディオアナライザ** など、
端末製造工程の各種試験をこの1台で実施
- 最高周波数6GHz、帯域幅160MHzにより、LTE-Advanced, IEEE802.11acに対応

4 充実したサポート体制によって高レベルの顧客満足度を獲得

- 当社の蓄えたノウハウで、製造ラインの効率改善

2 ports
for 2G/3G/LTE test



MT8820C
開発・量産両用テスト



4 ports
for 2G/3G/LTE & SRW
(Short Range Wireless)
test



MT8870A
ユニバーサルワイヤレステストセット

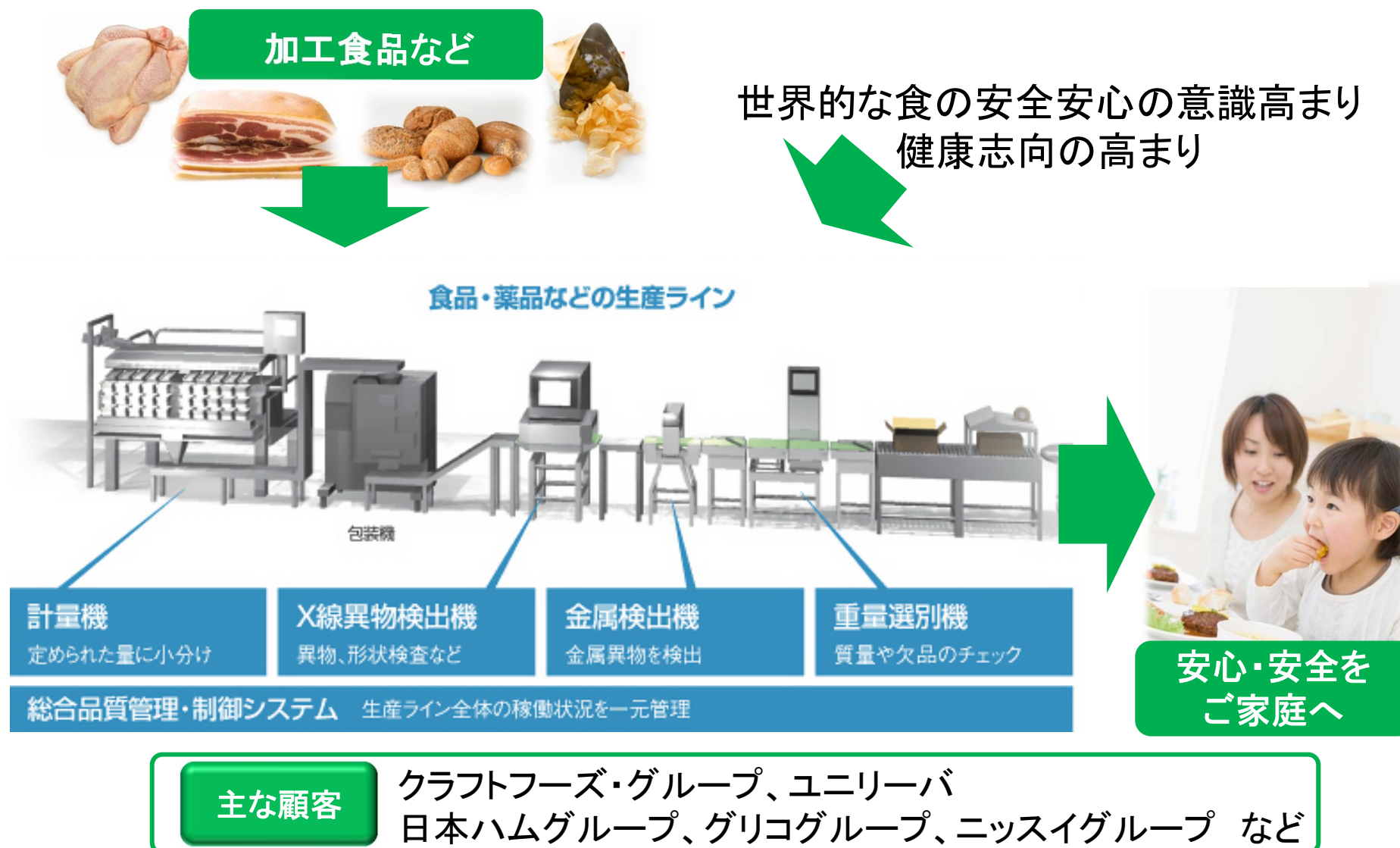
4-6. 計測事業の中長期的な利益構造モデル

	FY2011	FY2012	Mid-term operating Model
Revenue	70.6B yen	71.2B yen	CAGR $\geq 7\%$
COGS	39%	38%	39-42%
SG&A	30%	30%	28%
R&D	11%	11%	10-13%
Operating margin	20%	21%	$\geq 20\%$

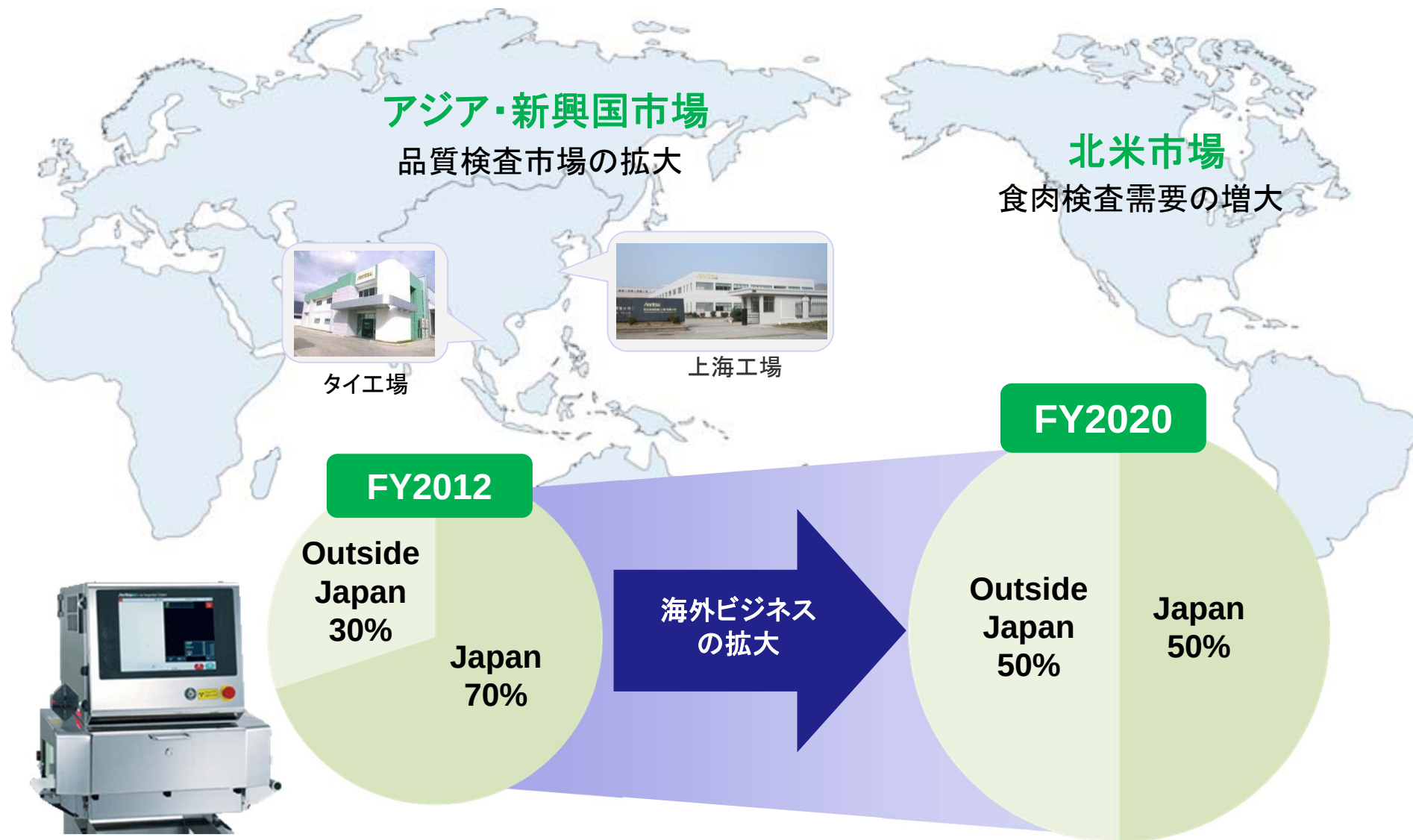
5. 産業機械事業



5-1. 産業機械事業



5-2. 産業機械事業のターゲット

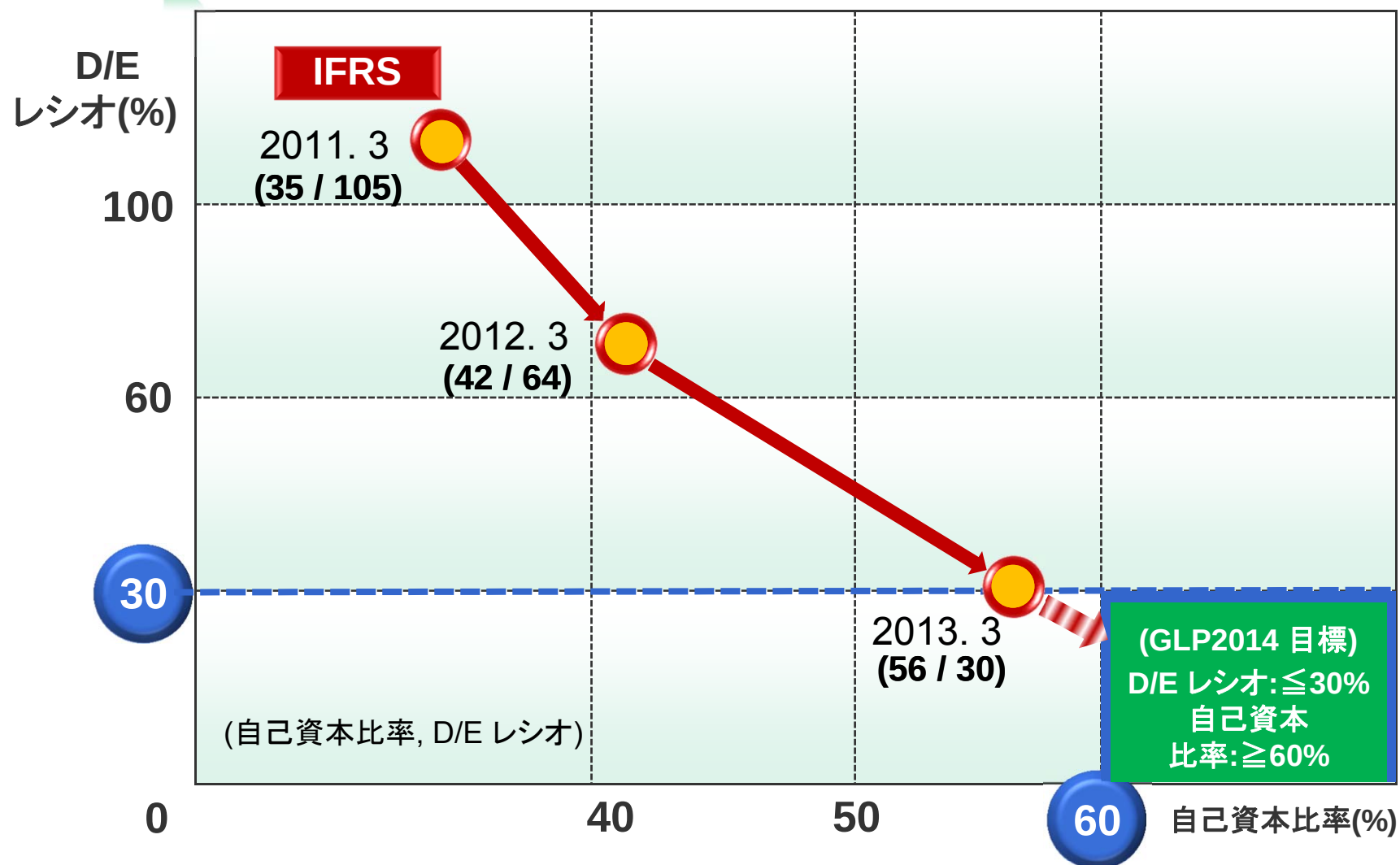


6. 企業価値の向上、配当方針



6-1. 強靱な財務体質

▶ Rapid improvement of financial structure



6-2. 配当方針

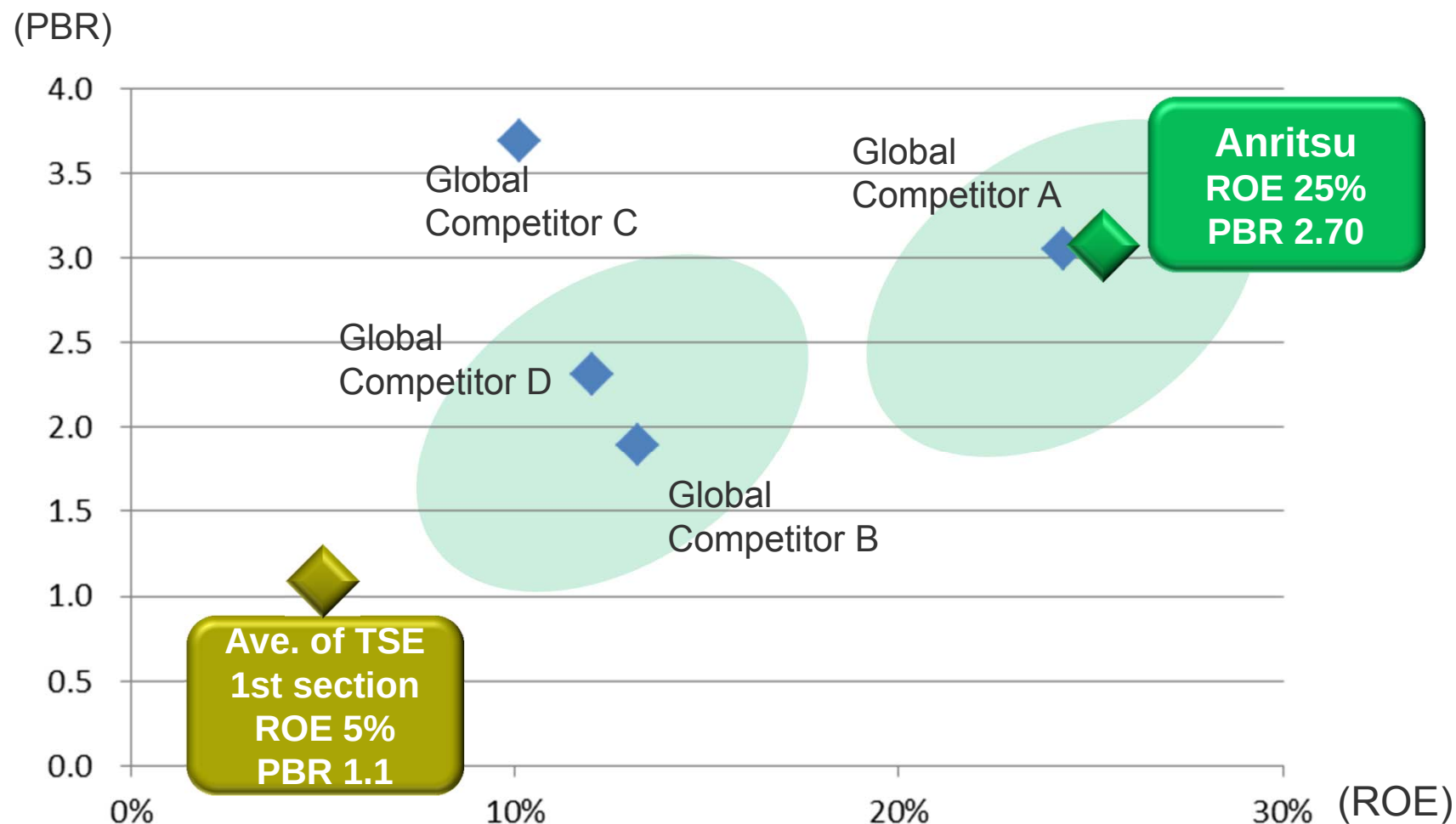
株主の皆さまに対する利益還元策は、連結業績に応じた利益配分を基本方針としております。

基本体系は連結当期利益の水準に応じて親会社所有者帰属持分配当率(DOE)の目標範囲が決まるとともに、企業価値を向上させる視点から諸般の事情を総合的に考慮して剰余金の配当を行うこととしております。

(Consolidated)	Actual						
	J-GAAP					IFRS	
	FY2007	FY2008	FY2009	FY2010	FY2011	FY2011	FY2012
ROE	-	-	1.0%	7.9%	21.5%	19.5%	25.0%
Dividend per share (Yen)	7.0	3.5	0.0	7.0	15.0	15.0	20.0
DOE	1.6	1.0	0.0	2.3	4.2	4.9	5.1

6-3. 資本効率性

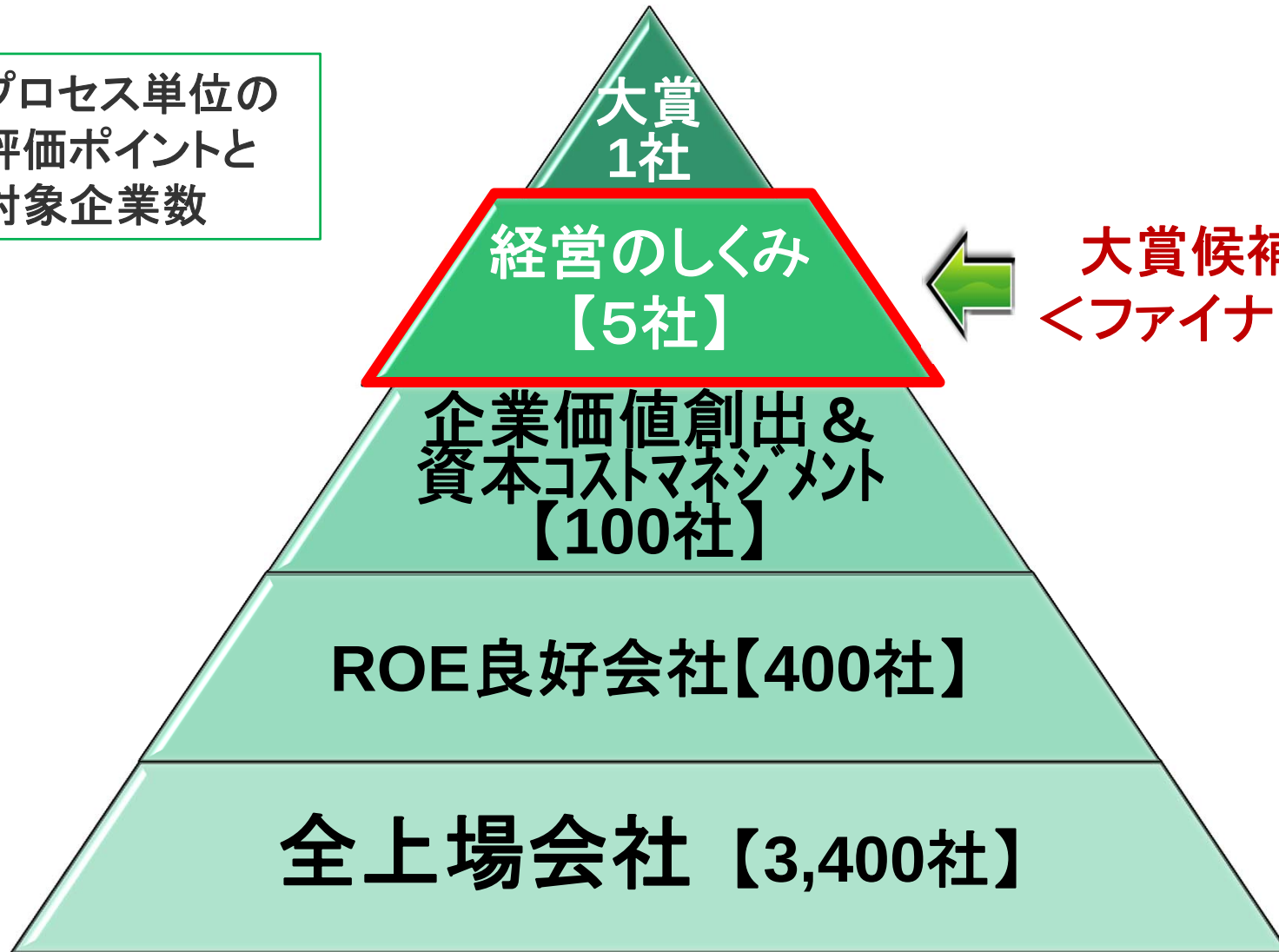
ROE と PBR – 海外の競合企業、日本企業との比較



Source: Each company data and statistics of Tokyo Stock Exchange
(ROE: Based on year ended until Mar.2013, PBR: As of Mar.31, 2013)

6-4. 東京証券取引所「企業価値向上表彰」のファイナリストに選定される

プロセス単位の
評価ポイントと
対象企業数



Anritsu

Discover What's Possible™



注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

